

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	2	必修
担当教員			
前田 拓生			
授業のねらい（概要）	<p>本演習では、Society5.0（デジタル時代）を前にして経済社会システムが大きく変貌しようとする中で、国内外の金融システムの状況（ESG投資や融資等を含む）について分析するとともに、金融経済領域に関する個別論点において学生の関心の高い論点について、調査・研究した内容を発表し、学生全体で議論等を行うことで理解を深める。</p> <p>このような議論を通じて、研究するテーマの設定、テーマ分野の実状把握、問題の認識・考察を行い、分析方法等についても学習しながら、金融経済領域の調査・研究に必要な能力の修得を目指す</p> <p>なお、この授業ではDPに記載のある「調査、研究のために必要となる様々なスキルを身に付け、企業や産業が直面する諸課題に対し高度な判断能力、分析能力を活用することができる」能力を養うことを目的とする。</p>		
授業計画	<p>第1回</p> <p>前期は、金融経済領域に関する個別論点について、調査・研究した内容を発表し、ゼミ全体で議論等を行うことで理解を深める。</p> <p>後期は、学生の興味・関心を尊重しながら、早期に研究の枠組みを構築し、その後、研究するテーマ（仮）の設定、テーマ分野の実状把握、問題の認識・考察を行い、分析方法等の習得を目指す。</p> <p>予習（時間）：各自が定めた個別論点について、毎週発表できるように調査・研究を計画的に行い、レジュメ等を作成する。（90）</p> <p>復習（時間）：ゼミで議論した内容を踏まえて、レポート、発表資料、プレゼンシート等を適切に修正する。（90）</p>		
授業を通して身に付けることができる能力（DP）	<p>DP(商学研究科)を意識した科目となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的な問題解決能力及び管理運営能力を養い、知識基盤社会を支える高度で知的な素養を身につけている。 ・調査、研究のために必要となる様々なスキルを身に付け、企業や産業が直面する諸課題に対し高度な判断能力、分析能力を活用することができる。 		
到達目標	<p>下記の3つを到達目標に掲げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①金融経済領域の研究テーマの設定とその学修計画を立て実行できる。 ②問題把握を行いその解決能力を身につけられる。 ③コミュニケーション能力を身につけられる。 		
課題や小テスト等のフィードバックの方法	<p>課題等を提出した場合、注意点等を赤字で記入の上、返却する</p>		
履修上の注意	<p>ゼミの活動に関しては何事も積極的、意欲的に参加すること。</p> <p>ゼミでは論文執筆のための調査・研究に関する発表が中心となるので、計画通りに調査等を行い、毎週発表できるようにしておくこと。</p> <p>講義の時間以外にも、自主的に調査・研究を行い、論文の完成に向けての研究活動に努めること。</p>		
成績評価の方法・基準	<p>調査・研究等の発表及び授業への取り組み状況（60%）、課題提出状況（40%）で評価する。</p>		
教科書	<p>成熟経済下における日本金融のあり方 ISBN番号：978-4864292016 著者名：前田拓生 出版社：大学教育出版 発行年：2013年 価格：2376円</p>		
参考書・教材	<p>【教材】前期は教科書に基づいて金融経済についての基礎的な理論、分析ツールを学ぶが、後期は適宜テキストを指示する予定である。</p>		
備考	<p>演習科目</p>		
教員との連絡方法	<p>メール（アドレスは授業内で周知）</p>		